

柏崎市^{おかえ}丘江遺跡現地説明会資料

平成 27 年 9 月 12 日（土）

国土交通省 北陸地方整備局長岡国道事務所

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

吉田・国際特定共同企業体



7区旧河道の階段状施設 岸辺から川面へ降りて、水汲みなどをするために作られた階段状の施設で、五輪塔と呼ばれる墓石をステップの土台として利用しています。墓石は、歩きやすいように五輪塔の一番下の部分に当たる方形をした石（地輪^{ちりん}）を多く選んでいます。近くに墓地があり、不要となった墓石を転用したものと推測しています。

5. 出土した遺物

出土した遺物の量は多くありませんが、昨年度同様に鎌倉時代～室町時代（13～15世紀）と江戸時代（17世紀以降）の土器や陶磁器、木製品、金属製品が多く出土しています。なかでも、金属製品の出土が今年度は目立ちます。通常、金属製品は腐食しやすく、また、使えなくなると鋳つぶして再利用されるので出土しにくいものですが、破片が多いとはいえ金属製品が多く出土している点は注目されます。遺存・条件が良かったためか、もしくは当時使用されていた金属製品の数が多かったためと考えています。



6. まとめ

丘江遺跡は、これまでの調査で、鎌倉時代～室町時代（13～15世紀）にかけて存続し、居住地を溝で区画した集落遺跡であったことが明らかになってきました。また、旧河道や地形の高低を考慮して、東側を居住地、西側を水田として土地を利用していたことから、地形の制約をうまく生かして暮らしていた様子が伺えます。その後、戦国時代（16世紀）になると、集落の様子は一旦わからなくなりますが、江戸時代には西側の標高の低いところを中心に広く水田を造成していたようです。今後も調査は継続しますが、調査成果の蓄積により、当時の集落の姿がさらに明らかになるものと期待されます。

1. はじめに

丘江遺跡は、柏崎市^{かしわぎ}田塚3丁目字丘江^{さばいしがわ}地内に所在し、鯖石川左岸の標高6～7mの扇状地末端に立地します。

国道8号柏崎バイパスの建設に伴い、昨年（平成26年）度から発掘調査を進めてきました。今年度は、遺跡の調査対象面積50,000㎡のうち、14,800㎡分を調査しています。

昨年度は、中・近世（上層）と弥生・古墳時代（下層）の2枚の文化層を調査しましたが、今年度は、上層のみの調査になります。

2. 基本層序

盛土 住宅造成などによる搬入土

I 層 表土、畑・水田耕作土

II 層 中世・近世の遺物包含層
（上層文化層）

III 層 弥生時代後期～古墳時代
前期の遺物包含層
（下層文化層）

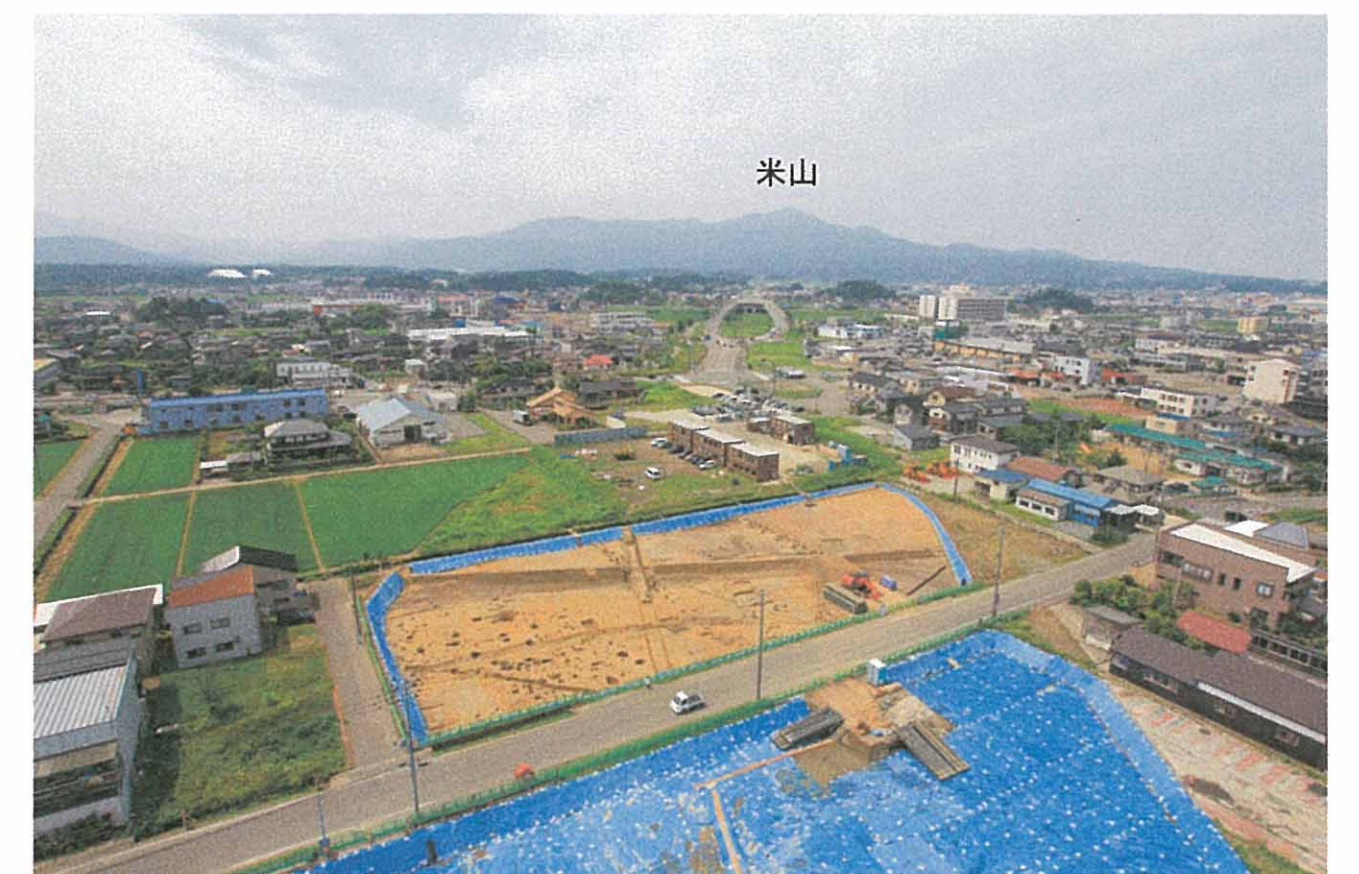
IV 層 中世・近世、弥生時代後期～
古墳時代前期の遺構検出面



基本層序



丘江遺跡の位置と周辺の主な遺跡



遺跡の遠景（南東から：米山を望む）